

「再生可能エネルギー熱利用にかかるコスト低減技術開発基本計画（案）」に対するパブリックコメント募集の結果について

平成31年2月26日
NEDO
新エネルギー部

NEDO POSTにおいて標記基本計画（案）に対するパブリックコメントの募集を行いました結果をご報告いたします。
貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

1. パブリックコメント募集期間
平成31年1月25日～平成31年2月8日
2. パブリックコメント投稿数＜有効のもの＞
計1件
3. パブリックコメントの内容とそれに対する考え方

ご意見の概要	ご意見に対する考え方	基本計画・技術開発課題への反映
<p>全体について</p> <p>[意見1]（1件）</p> <p>トータルコスト20%以上削減目標は、地球温暖化対策としては、不明確ではないかと思えます。先進国と途上国の費用負担割合が大きな課題になっています。世界の地球温暖化対策の課題は、脱炭素社会構築のための再エネの低コスト化と地球温暖化緩和への貢献度であり、しいては再エネと発電設備建設費の負担軽減です。従って、目標は、エネルギーコスト〇〇円/kWhと据付コスト〇〇円/kWと温度上昇値抑制効果〇〇℃であると思えます。このような目標が再エネの技術的イノベーションの目標をはっきりさせ、原動力になります。</p> <p>また、地中熱はヒートポンプに接続されて使用されるため、地中熱の性能はヒートポンプの性能によってほとんど決まってしまう。このような現状を考えると、地中熱の特性を良く理解</p>	<p>[考え方と対応]</p> <p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>ご指摘の通り、明確な数値目標を設定することは技術開発を進める上で重要であると考えます。一方で、熱利用の分野において、エネルギーコストや温度上昇値抑制効果等については、どのように利用されるか等、需要側の状況によって左右されますので、本事業ではトータルコスト削減割合及び投資回収年数を目標値として掲げております。</p> <p>また、本事業では、再生可能エネルギー熱利用システムの導入に関わる上流から下流までのプレイヤーで構成されるコンソーシアムで研究開発を推</p>	<p>[反映の有無と反映内容]</p> <p>特になし。</p>

してヒートポンプが開発されてしかるべきではないかと思いません。一方、肝心の地中熱技術については、現在の性能は、空調技術者が安心して利用できないという大きな問題があります。このため、地中熱熱交換器とヒートポンプとの融合を行い、シナジー効果を生み出すためのプロジェクトをNEDOが行うべきと思います。

進するため、この研究体制の中でヒートポンプを含め、各要素の有機的な連携を図ってまいります。

以上